

5月28日(日)平成18年度植田校区春季合同大運動会が行われました。天候不安定のため開催が危ぶまれていましたが当日は雨も上がり、無事に開催することができました。

午前中は、小学校・保育所の部。子どもたちのパワー全開で練習の成果を発揮して、演技や競技に精一杯がんばっていました。そして、保育所の子どもたちのかわいらしい演技に拍手喝采で、場内も笑顔でいっぱいになりました。また、小学生の力強さに家庭からの応援の声があがっていました。

午後からは、町民一般の部。愛育会の小さなお友だちから熱年クラブのみなさんまで、老若男女が一同に集い「ふれあい」大運動会を楽しみました。日ごろから、運動不足のお父さん・お母さん達もこの日ばかりはと、盛り切って参加していました。自治会対抗競技あり、親子での出場種目あり、また「座直テンバ」では、大きな【とうもろこし】が参加して、会場を沸かせました。大人も子どもも一緒にサンバのリズムに乗って歓声の中、楽しい運動会となりました。



「座直テンバ」をする子どもたち

「巨大とうもろこし」
座直にあるのかなあ・・・

小学校炭焼き体験クラブ開催

植田小学校では、地域の方たちとのふれあい交流をしようと授業の一環で「炭焼き体験クラブ」が発足しました。

4年生から6年生までの男女15名が「植田長説会」の方々と炭作りを、1年間かけて体験することになりました。第1回目は、炭作りの流れの説明を、小学校で受けました。実際に、炭を目の前にして子どもたちは大きな歎声を上げていました。かぼちゃやきゅうりが小さく真っ黒な炭になっている!あれこれ、炭を触ると、手が真っ黒だ。初めて触れる炭に驚きの声の連続でした。

第2回目は、炭焼き窯のある、大糸の祭場へ行き、見学と説明を受けました。子ども達も、炭にして欲しいものを持参して積極的に質問し、「こんなもの入れたら、炭になるのかなあ?」「どのくらいで、炭が出来るの?」「なんで、大きなかぼちゃが、小さくなっちゃうの?」子どもたちの不思議は、まだまだ続きそうです。



焼きあがった炭にびっくり!



祭場でのお話を興味津々

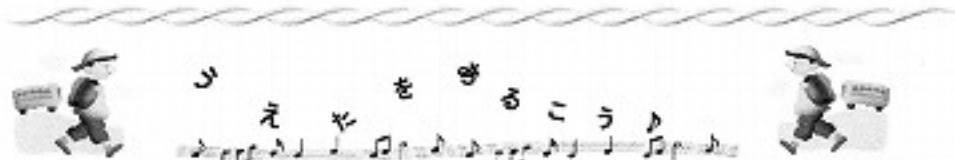
平成14年、西植田老人クラブ連合会(長命会連合会)が解散され、その後第一長命会を除く植田校区で六つの新しい単位組織で「植田校区熱年クラブ連合会」を組織し発足以来4年間会員相互の親睦と融和を図るとともに、地域の発展と地域高齢者福祉の増進に寄与する目的で活動をしてまいりました。

本年度から植田校区を継承した、七つの単位クラブで会員数350名を数える組織として名実ともに植田校区熱年クラブ連合会として一段階団結、助け合い頑張りあって暮らしていく仲間を目指し、地域高齢者福祉活動に努めてまいります。皆さんのご理解とご協力をお願い申し上げます。

なお、一人でも多くの方の加入をお待ちしています。加入については各クラブへお問い合わせください。

連合会役員	氏名	所属役職等	会員数	備考
会長	馬場 光好	熱年クラブ連合会 会長		
副会長	釜野 審代子	大糸北側会 会長	50名	
副会長	中井 駿	本村ひまわり会 会長	38名	
副会長	柳原 清	池田会 会長	38名	
理事	飯間 敏子	郷山会 会長	60名	
理事	村尾 貞輝	稗田会 会長	44名	
理事	飯間 敏美	岩竹会 会長	60名	
理事	佐藤 篤	藤尾長命会 会長	60名	
監事	泉川 定信	池田会		
監事	岩部 チニ子	藤尾長命会		

会員総数
350名



神村の湧水

神村(こうのむね)湧き水をご存知ですか?西植田の南の端に位置します。桜並木で有名な山道を道なりに上がっていくと、山の斜面から湧き水が出ています。

そのおいしいことと言ったら、たとえようがありません。自然のありがたきを痛感させてくれます。「毎週水汲みに行くんで~」と言う。ファンになるほどのおいしさです。一度、ペットボトルでいよいよリタンクを持参してのドライブもいいかもしれませんね。その後は、すぐ隣の展望台で休憩でもいかがでしょう。

3月5日に「上佐山」の整備が無い、登山道も快適に歩けるようになりました。ここからは、地域の皆さんのご協力で快適な登山道の確保をしていかなければなりません。

「明日、山頂の草からしに行ってくるよ」と言う声を聞きました。その方は、元気な熱年クラブのメンバーです。お元気さに脱帽ですが、やはり頼ってばかりも居られません。こんな景色のいいところが、植田にもまだ生だあるのです。ハイキング=草からしの勞に値します。
ぜひ登ってみませんか?



かまとこ地蔵

神村橋(こうのむねばし)の北側の山腹にある「かまとこ地蔵」。

源氏と平家の戦いの時、30歳の平家の源氏は春日川を南へ逃げましたが、追手につかまってしまいました。

数名のものは、炭焼窯に潜んでいましたが、源氏にみつかり、悲しい結果を迎えました。後になって、武者の靈を慰めるため、地蔵を祀ったと言われた場所です。歴史探る「かまとこ地蔵」。歴史創作民話「いろはのはのじ」にも、掲載されています。(4ページ参照)



上佐山からの展望